

JJAにしゅうわ 産地情報 Vol.1

平成23年産温州みかんの生長記録（芽吹き～開花）

本年は3月～4月の平均気温が平年に比べ1.5℃程度低く、早生温州の発芽は4月4日で平年よりも5日遅く、満開日は5月12日となり平年に比べ3日遅れとなった。（平年5/9 満開）
 着花状況は表年で花の多い状況ではあるが、表年とされた21年産と比較すると、全体に花は少ない見込みで予想以上に発芽量も多く、ますますのスタートとなった。（有葉果率は高い）
 現在、次年度の安定生産に向け、芽と花のバランス調整を行っています。

◎理想⇒ 花 50 新梢量50 花⇒多い 摘蕾 花⇒少ない 芽かき ※今年は摘蕾の作業をしている方が多い。

芽吹き（3月）



着蕾（4月）



開花（5月）



摘蕾（てきらい）作業を積極的に実施中!!

4月～5月にかけて、摘蕾作業（つぼみをもぎ取る作業）を実施中です。早期に樹体負担を軽くし、次年度の安定生産につなげます。生産量の調整や高品質果実生産のため樹冠上部（上から1/3の部分）の蕾を手作業でもぎ取ります。まずは始めの一步から。高品質果実生産に向けた農作業は既に始まっています。



摘蕾作業前のみかんの樹



摘蕾作業中（樹冠上部を全て摘蕾します）



摘蕾作業後のみかんの樹

【トピックス】①

【トピックス】②

【新常務 紹介】

「三好常務が3月末で退任され新常務に前三瓶共選長の加賀城常務が就任されました。」



5/6にSPの佐久間さん以下有志5名が産地研修を行いました。高月会長以下役員さんと記念写真。川上園地にて

【トピックス】③

「新 部長紹介」

4月の人事異動で キノシタ チカシ 木下 親 部長(54)が配属されました。前共済部長で以前八協の事務所長を経験されています。「今後とも宜しくお願いします。」



◎これで西宇和の売上の保障も万全ですね。



新任挨拶

産地販売担当常務理事 加賀城 隆彦

少子高齢化、デジタルによる日本経済の取縮・・・当組合管内におきましては、組合連立維持による事業量の減少は、組合連立維持した無しの改革を余儀なくされております。しかしながら、当地域が柑橘を中心とした農業によって立っていかねばならないことは自明であり、高品質生産という点では従来の条件ではありますが、経営的にはコストの高いこの産地を、いかに保持し発展させていくが正念場だと感じています。

中長期的な視点も含め、隔年出荷、価格の乱高下に歯止めをかけ、農家経済の安定を図りながら、生産量の減退を防ぐ施策が、大切であると思っています。

微力ながら、一生産者の視点を大切にし、農家所得の向上と西宇和農協の発展に尽力する所存でございますので、皆様からの御協力をお願いいたします。

平成23年産 温州生産予想量

平成23年5月20日 現在

分類	品 種	生産予想数量(トン)	前年比	前々年比
極早生	日南・楠本	4,597	95%	115%
温 州	宮川早生	23,545	133%	122%
	南柑20号	9,626	131%	112%
	普通	2,250	131%	112%
	小計	40,023	113%	106%
	加工	4,462	231%	47%
	合計	44,485	113%	108%

上記は、現在の成り行き生産量です（前年比、前々年比は受入実績を基準に対比）現在の予想数量は前年比、前々年比をともに上回っておりますが、ともに生産調整をした結果の受入に対しての対比ですので昨年よりは多いものの、
 平成21年より着花数が少なく発芽は多いことから今後の生産調整や高品質果実生産に向けた取組は易しい状況です。近年まで極端な隔年結果をしておりましたが、生産面での努力によりかなり安定してきております。